（別紙様式２－２）

「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

都道府県・指定都市名（　鳥取県　）

１．調査研究のテーマ、概要

（１）調査研究のテーマ

人権教育を通じて育てたい資質・能力の育成

（２）調査研究のテーマを設定した目的

人権教育の一層の充実が求められているという現状、また、学校教育において、いかに人権教育の目標を達成するかを考えたとき、人権教育を通じて育てたい資質・能力をバランスよく育てることは、喫緊の課題である。

本県では、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」や「鳥取県人権教育基本方針―第２次改訂―」に基づき、年度ごとに学校教育における人権教育推進のための重点を定め、市町村教育委員会や各学校と連携しながら人権教育を推進し、全県的に一体感のある取組となるよう努めている。

とりわけ、人権教育を通じて育てたい資質・能力については、県内すべての学校で「人権教育全体計画」の中に明確に位置づけ、学校としての組織的な取組を推進する体制が整えられている。しかし、それだけでは十分でなく、効果的に児童生徒の育成につながる取組の充実を図る必要がある。

そのためには、参加型をはじめとした指導方法の工夫を含め、各教科等と人権教育との関連を図る視点が欠かせない。また、「人権教育・啓発に関する基本計画」でも指摘されているように、普遍的な視点と個別的な視点の往還も大切であると考える。これらの視点を中心に、研究指定校における人権教育の取組の充実を図り、普及に努めることで、各学校の児童生徒の「生きる力」を育む基盤としての人権教育推進につなげていきたい。

（３）調査研究の概要

・児童生徒の発達段階に応じた効果的な学習教材の選定・開発を行い、「育てたい資質・能力」の育成を図る。
・普遍的な視点と個別的な視点の往還を意識し、児童生徒が多面的・多角的に考え、主体的に学習に参加することができる授業づくりを行う。

２．調査研究の体制・内容等

（１）研究指定校の概要

学校名	米子市立福生中学校
これまでの研究指定等の状況	特記事項なし
学級数	１４学級（うち特別支援学級：１学級）
児童生徒数	全生徒数：３７８人（令和５年１月１日）
ＵＲＬ	https://sites.google.com/g.torikyo.ed.jp/fukuike-j/

（２）指定理由

研究指定校では、「確かな学力」と「豊かな人間性、社会性」を兼ね備えた生徒の育成を図るため、平成３１年度より、「主体的に学びに取り組み、自分の思いや考えを言葉にして表現できる力の育成」「自分の思いや考えを相手に伝え、仲間の思いや考えを受け止め、ともに成長し合える喜びを感じられる学級集団の育成」を研究の柱に据え、その実現に向けた取組を実践してきた。実践にあたっては、「学びの共同体」理論における協同学習、体育祭・文化祭期間における振り返り活動、対話スキルを磨く話し合い活動等、生徒が思いを語る場、対話的コミュニケーションを図る場を計画的に配置し、すべての活動を有機的に結びつけることで、生徒のコミュニケーション力をはじめとした資質・能力の向上を図るようにしている。その結果、全国学力・学習状況調査や各種アンケート（本校独自アンケート）では、

前年度、前々年度と比較し、数値の上昇が見られ、一定の成果を上げた。

また、研究指定校を含む福生中学校区は、令和４年度に米子市中学校区人権教育研究発表会の開催を予定しており、中学校区の研究組織を立ち上げて研究を推進しているところである。この研究を始めるにあたり、平成３１年度に本校区児童生徒の「家庭生活・学校生活、自尊感情、人権感覚」について実態を把握するため「福生中学校区人権感覚･自尊感情に関わる意識調査（自分アンケート）」を作成した。その結果を分析すると、本校区全体の児童生徒の傾向として、「学習に対して、粘り強く挑戦したり継続したりしようとする意欲が低いこと」、「自己表現欲求が低いが、承認欲求は高いこと」、「人間関係づくりが苦手であること」がうかがえた。本校区では、校区人権課題の根幹を「自尊感情」とし、授業や学校生活での関わり合いやその基盤となる環境づくりを通して、自尊感情を育てることを共通認識した。そして、校区研究主題を「自他を大切にし、互いのよさを認め合い、高め合う子どもの育成～一人ひとりが大切にされる魅力あふれる校区をめざして ～」と設定し、就学前部会、学校教育部会、ＰＴＡ部会が三位一体となった人権教育の推進にあたることにした。

研究指定校においては、「自尊感情の醸成」を研究の柱に据え、人権教育研究主題を「自尊感情を高め合い、豊かな人間関係を築く生徒の育成」と定め、その実現に向けて「人権教育の指導方法等の在り方について[第三次とりまとめ]」に示された「人権尊重の視点に立った学校づくり」を参考に「授業づくり部会」「仲間づくり部会」「心をはぐくむ環境づくり部会（心はぐくみ部会）」の三つの部会を立ち上げた。それぞれの部会が連携を図りながら研究を進めており、研究指定校としてふさわしいと判断した。

３．取り組んだ人権課題について

（１）人権課題「子供」について取り組んだこと

研究指定校では、いじめに関する意識調査（生活アンケートとして年５回実施）、ＱＵアンケート（年２回実施）を行い、いじめの早期発見、未然防止に取り組んだ。さらには教育相談週間（各学期末と２学期始業前の計４回）を設け、一人ひとりの生徒の学校生活や家庭における様々な状況を把握することで、いじめや虐待、ネグレクトなどを早期に発見し、解決する糸口を模索することができるよう全校体制で取り組んだ。いじめを認知した際には、いじめ対策委員会を開き、複数の教職員が連携して対応にあたった。また、米子警察署生活安全課、サポートセンター等の関係機関との会議を定期的に行い、情報共有や問題の解決に向けたアドバイスなどを受けた。

（２）取り組んだ人権課題（該当するものに〇印。複数選択可。最も重要なものとして取り組んだもの１つには◎をつけること。）

①女性	
②高齢者	
③障害者	○
④同和問題	○
⑤アイヌの人々	
⑥外国人	
⑦−１HIV 感染者等	
⑦−２ハンセン病患者等	
⑧刑を終えて出所した人	
⑨犯罪被害者等	
⑩インターネットによる人権侵害	○
⑪北朝鮮当局による拉致問題等	
⑫性的指向、性自認	◎
⑬その他（多文化共生社会）	○

４．調査研究の内容等

（１）調査研究の内容

令和２年度全国学力・学習状況調査では、「自分にはよいところがあると思いますか」87.3％（全国

76.2%）、「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」97.5%（全国95%）と非常に高い結果となった。しかし、校区人権アンケート（自分アンケート）では、「自分は誰かの役にたっていると思いますか」66.3%、「今の自分は好きですか」69.0%、「自分の思ったことを相手にはっきりと言うことができますか」75.2%であった。さらに詳細な分析を進めるために、校区人権アンケート（自分アンケート）における各項目のクロス集計を行った。「自分は誰かの役に立っていると思いますか」にも「今の自分は好きですか」に対しても否定的な回答をした生徒は、全体の19.2%にも及んだ。また、「自分にはよいところがあると思いますか」に否定的な回答をした生徒の79.4%が、「自分の短所や苦手なことを気にしている」という回答であった。

各種調査を踏まえ、「他人との関係性を築いていく力が弱く、積極的に他者と関わろうとしない生徒が多いこと」「自分の思いや考えを持てず、他の人の意見に賛成するなど、他者への依存傾向が強いこと」「自分のよさや自己有用感を実感しきれず、自分を肯定的に受け止められていない生徒が見られること」が実態として見えてきた。そして、それらは「自尊感情の低さ」に起因していると考えた。この自尊感情は、すべての教育活動の中で意図的・系統的な関わり合いを設定することによって、高め合うことができるのではないかと考え、人権教育研究主題を「自尊感情を高め合い、豊かな心と人間関係を築く生徒の育成」とした。また、個別の人権課題については、普遍的な視点として「多様性の受容」と「個人の尊厳」に重点をおき、「障がい者理解（１年）」「性の多様性（２年）」「多文化共生（３年）」のように系統的に学習することで、自他を大切にする心が育まれるのではないかと考えた。

研究を進めるにあたり、「人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕」に示された「人権尊重の視点に立った学校づくり」における３つの視点を参考に、授業づくり部会、仲間づくり部会、心をはぐくむ環境づくり部会の３つの部会を組織した。各部会は研究仮説をもとに実践を重ねるとともに、有機的につながることによって本主題に迫ることとした。

①　＜研究仮説＞「人権が尊重される学習活動づくり」についての視点

「まとめ、ふりかえり」について、生徒のアウトプットに基づいた教職員のリフレクションを行うことで、教科を横断した「まとめ、ふりかえり」の質的向上を図ることができるだろう。また、生徒が自他の学びのよさをアウトプットすることを通して学び合い、協働してよりよい課題解決に向かう意欲の高まりや学力向上が実現するだろう。

②　＜研究仮説２＞「人権が尊重される人間関係づくり」についての視点

縦割り活動、終わりの会や体育祭・文化祭期間に位置づけられた自他を認め合ったり、思いを共有し合ったりする活動を通して、自己有用感や学級への安心感を抱くとともに、思いを伝え、思いを受け止めることができようになり、ともに成長し合える喜びを感じる集団形成、人間関係が構築されるだろう。

③　＜研究仮説３＞「人権が尊重される環境づくり」についての視点

人権意識を高める実践計画、校内環境を整備したり、家庭・地域との連携した取組を推進したりすることを通して、自他の大切さを認め合う基盤がつくられ、自尊感情を育む礎を築くことができるだろう。

（２）実施方法

①「人権が尊重される学習活動づくり」についての研究【授業づくり部会】

これまで、自分の思いや考えを相手に伝え、仲間の思いや考えを受け止めることができる表現力やコミュニケーション力の育成に重点をおき、全ての教科・領域等において、協働的な学習を中心に据えた「わかる・できる・認められる」が実感できるための学習過程の工夫に取り組んできた。今後は、それらの力を礎とし、自ら学び続け、思考、判断できる力を伸ばすことが必要であると考えた。そこで、生徒が主体的な学習者として課題に向き合い、学習をまとめ、他者とアウトプットし合うプロセスを通して、自他の学びのよさに気づき、学びを自覚し、さらなる意欲を持つことができる授業をめざした。具体的には、生徒の「まとめ・ふりかえり」のアウトプットに基づいた教職員のリフレクションを行い、教科を横断した「まとめ、ふりかえり」の質的向上をめざした授業改善の取組を実践した。実践するにあたり、「まとめ、ふりかえり」のデータ収集、「まとめ・ふりかえり」の定期的な比較検証、「まとめ・ふりかえり」の質的向上をめざした授業改善についての協議を適宜行った。また、タブレット端末を活用し、思考ツールを生かした授業づくりを進めた。

②「人権が尊重される人間関係づくり」についての研究【仲間づくり部会】

よりよい集団づくり、人間関係づくりは、子どもたちの学びの質を高めるだけではなく、互いの信頼を深め、尊重し合えるようになると考えた。そこで、体育祭、合唱コンクール、総合的な学習の時間に縦割

りの取組を設定し、多様な関わりを持つ場として位置づけた。特に３年生は、リーダー学年としての責任と自覚が芽生えたり、先輩として「どうありたいか、どんな姿を見せたいか」を考えたりする中で、自己有用感を得られると考えた。さらには、自尊感情の醸成との相乗効果も期待した。また、行事期間中に自他を認め合い、思いを共有し合う場（クラスミーティング）を設定したり、話す力・聞く力を高め、他者とのつながりを実感する時間（つながりタイム）を設定したりすることで、相手の話に耳を傾けるとともに自分の思いを表現し、互いを尊重し合う関係づくり・集団づくりをめざした。

③「人権が尊重される環境づくり」についての研究【心をはぐくむ環境づくり部会】

「人が環境をつくり、環境が人をつくる」と言われるように、学校内の環境を整えることは、生活や気持ちを落ち着かせたり、安定させたりする上で重要な意味をもつ。しかし、ひとえに環境といっても、掲示物や机、ロッカー等の物理的な環境だけではなく、心の状態、個々の価値観や友人関係といった内面的な環境についても考えられる。そこで、物理的な環境整備を進めるだけではなく、人権意識を高める実践計画についての研究や自尊感情の変容を数値化し、詳細な分析を行うことを通して、よりきめ細かい支援ができる体制づくりを進めた。具体的には、各学年人権教育担当で話し合い、「普遍的な視点」に立った３年間を見通した年間指導計画の作成や「ノーメディアウィーク」をはじめとした保小中家庭が一体となった取組を実践した。また、自尊感情やコミュニケーション力を育むＷＹＳＨ教育と生徒の実態に即した人権学習を各学年２回ずつ実践し、学習の前後で心の変容を見取ることにした。さらには、教室環境チェックリストを全教職員で確認し、ユニバーサルデザインの視点に立った教室環境づくりを推進した。

（３） 検証・評価・改善・普及

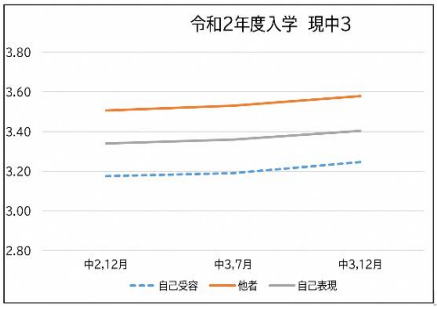
① 検証・評価・改善について

検証・評価にあたっては、単一のアンケート項目に注目し、どのように変化したかを読み取るだけでなく、「自尊感情」の特性を鑑み、複数のアンケート項目を有機的に結びつけることにした。そのため、東京都教職員研修センターの実践を参考に自尊感情を３つの要素に分けて捉え、それぞれの要素に既存のアンケート項目を分類した。調査・集計にあたっては、４段階で回答させ、学年ごとの平均値をとった。さらに、それぞれの要素において５つの平均値を求め、グラフ化した。

以下の結果は、令和３年１２月と令和４年１２月の集計における肯定的回答の比較である。１学年に関しては比較対象がないため、令和４年１２月の結果のみ示している。

３つの要素	質問項目	１学年	２学年	３学年
自分をどのように受け入れているのか（自己受容）	自分にはよいところがある。	84.1%	86.3%(+3.0)	88.6%(+1.3)
	自分は誰かの役に立っている。	79.4%	83.2%(+3.4)	81.1%(+5.7)
	今の自分が好きだ。	78.5%	81.1%(+9.2)	81.8%(−2.5)
	今の自分に満足している。	61.7%	69.5%(+8.3)	65.9%(−3.5)
	自分は大切な存在だ。	83.2%	84.2%(+4.4)	83.3%(−4.0)
人との関わりをどのように捉えているのか（他者との関係性）	まわりの人の気持ちを考えて行動している。	94.4%	93.7%(−1.0)	97.0%(±0)
	自分の役割は、最後までやり通すことができる。	94.4%	93.7%(+3.3)	93.9%(−2.4)
	自分のことを理解してくれる仲間が周りにいる。	95.3%	93.7%(+4.2)	91.7%(−2.3)
	人の意見を素直に聞くことができる。	91.6%	90.5%(−2.5)	93.2%(+4.4)
	私には自分のことを必要としてくれる人がいる。	86.9%	87.4%(+4.9)	85.6%(−3.2)
自分をどのように表現しているのか。（自己表現）	自分の思ったことを仲間にはっきりと言うことができる。	78.5%	73.7%(−1.7)	81.8%(+1.2)
	得意なことや自信を持てることがある。	87.9%	87.4%(−1.2)	85.6%(+0.5)
	難しいことでも、自分から進んで挑戦しようとしている。	81.3%	77.9%(−1.0)	83.3%(+1.2)
	自分の判断や行動を信じることができる。	85.0%	85.3%(+8.1)	85.6%(+3.5)
	自分の個性を大事にしたい。	89.7%	88.4%(+5.1)	91.7%(−2.3)

(※) 割合は令和４年 12 月のもの。（ ）内は、各学年における令和３年 12 月から令和４年 12 月の変化を示している。



アンケート結果において、多くの項目で数値の上昇が見られた。特に第２学年では、「今の自分が好きだ」「自分にはよいところがある」「自分は大切な存在だ」の肯定的回答が３ポイントを超える増加が見られた。校区の取組や３つの部会の多様な関わり合いと振り返りによって、自己を肯定的に受け入れることができる生徒が増えていると考える。また、自尊感情を３つの要素として捉え、グラフ化した結果では、すべての要素において数値が上昇している（右

図：現中３）。これは、肯定的回答の中でも上位の回答である「そう思う」を選んだ生徒が増加したことにより、各要素の平均値が上がったためである。研究３部会の取組が一定の成果をあげたものであるといえる。しかし、自尊感情を３つの要素の総合的なバランスで考えたとき、本校は「他者との関係性」が他の要素と比べ、とても高い数値であった。これは、周りの人の大切さに気づくことができる一方で、安易に他者の考えに合わせたり、流されたりするおそれがある。自尊感情の３つの要素をバランスよく高められるように、部会の取組と３つの要素の関係性を明確にしたい。また、アンケート結果において平均値を大きく下回った生徒に対して、学年人権担当、教育相談担当と連携をとりながら、個への効果的な働きかけを行っていきたい。

② 普及について

１１月開催された米子市人権教育研究発表会において、市内の中学校を中心に他校・他校種・他地域への普及・啓発を図ることができた。今後は、福生中学校区人権教育研究会をはじめ、学校や県のホームページを活用し、本研究に係る取組について情報発信を適宜行う。

③ 委託期間終了後の取組

人権教育１５年プランに基づいた実践や成果を、中学校区人権教育研究会において校区全教職員に周知し、共通理解のもと系統的な取組として継続していく。

（４）実施状況

＜都道府県・指定都市教育委員会＞

時　期	内　容	備　考
４月２５日	第１回「人権教育研究推進事業」連絡協議会	参加者：７名 対　象：福生中教職員、米子市教育委員、西部教育局、当課
	指導主事による研究指定校訪問指導	
７月１３日	・校内授業研究会事後研修会	参加者：１０名　対象：教職員
８月２２日	・指導案検討会	参加者：１０名　対象：教職員
１０月１３日	・指導案検討会②	参加者：１０名　対象：教職員
１１月２５日	米子市中学校区人権教育研究発表会での指導助言	参加者：９０名 対　象：米子市内教職員等

＜研究指定校＞

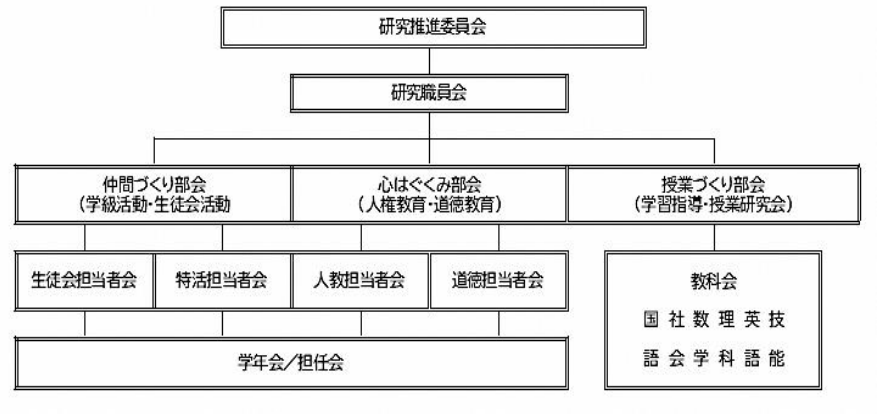
時　期	内　容	備　考
４月５日	研究職員会・研究部会・学年会・担任会	参加者：３０名　対象：教職員
５月２日	福生中学校区・同和教育推進協議会学校教育部会研修会 「ユニバーサルデザインを取り入れた環境づくり」 講師　ＬＤ等専門員　田澤　理恵　教諭	参加者：７０名 対　象：中学校校区教職員
６月１５日	研究職員会・研究部会	参加者：３０名　対象：教職員
７月１１日	人権講演会（思春期の心と体） 講師　ミオ・ファティリティ・クリニック　葉山美紀子氏	参加者：３年１４７名 対　象：生徒
７月１３日	校内授業研究会・事後研修会 個別の人権課題　１年：世界人権宣言 ２年：災害と人権 ３年：インターネットと人権（同和問題） 指導助言　鳥取県教育委員会西部教育局　前田彰子指導主事 米子市教育委員会学校教育課　岡田誠一指導主事 鳥取県教育委員会人権教育課　市谷誠裕指導主事	＜事後研修会＞ 参加者：３０名　対象：教職員
８月１０日	研究職員会・研究部会	参加者：３０名　対象：教職員
８月１７日	研究職員会	参加者：３０名　対象：教職員
８月１９日	第１学年指導案検討会	参加者：８名　対象：教職員

８月２２日	第３学年指導案検討会	参加者：１０名　対象：教職員
９月８日	人権講演会・手話体験 講師　鳥取聾学校ひまわり分校　石谷紀子教諭、手話支援員５名	参加者：１年生１２０名 対　象：生徒
９月２７日 １０月１１日 １０月１３日	第１学年指導案検討会 第２学年指導案検討会 第３学年指導案検討会	参加者：８名　　対象：教職員 参加者：８名　　対象：教職員 参加者：１０名　対象：教職員
１１月２１日	人権講演会（性の多様性） 講師　一般社団法人 ELLY 代表理事　山口颯一 氏	参加者：２年生１１１名 対　象：生徒
１１月１０日	研究紀要の配付	１５０部 配布先：米子市内中学校 関係機関
１１月２５日	米子市中学校区人権教育研究発表会 個別の人権課題　１年：障がいのある人を取り巻く問題 ２年：性の多様性 ３年：多文化共生 指導助言　鳥取県教育委員会西部教育局　前田彰子指導主事 米子市教育委員会学校教育課　岡田誠一指導主事 鳥取県教育委員会人権教育課　市谷誠裕指導主事	参加者：９０名 対　象：米子市内教職員 関係機関職員
２月２日	授業研究会	参加者：３０名　対象：教職員

（５）人権教育に係る年間指導計画

・別紙参照

５．推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



（関係協力機関）
○鳥取県教育委員会
（人権教育課・西部教育局）
○米子市教育委員会
○福生中学校区人権教育
研究発表会実行委員会